



バーゼルワールド2017

パテック フィリップ ジュネーブ

誕生 40 周年を迎えるパテック フィリップのキャリバー 240、 1977 年のデビュー以来、最新作カラトラバ 6006 モデル発表の今日までに、76 億振動を達成

今から 40 年前のバーゼルワールド（当時バーゼルフエア）において、歴史に名を残すことになるムーブメント、パテック フィリップのキャリバー 240 がデビューした。今日、通算 76 億振動（片道）を達成したその第 1 号ムーブメントは、スリムなゴールドの時、分表示を備えた紳士用ゴールド・エリプスに搭載されていた。このエレガントなモデルは、ケースの異例なフォルムと薄さで際立っていた。しかしこれほどの薄さにもかかわらず、当時の通常の超薄型時計がそうであったように、手でぜんまいを巻き上げる必要がなかった。自動巻だったのである。クォーツの台頭によってスイス時計産業が壊滅的な打撃を受けていた当時、ジュネーブのマニュファクチュール、パテック フィリップは、新しい機械式ムーブメントの開発に投資し、500 年以上にわたる伝統を断固、守り続ける決意を表明したのであった。

1976 年、フィリップ・スターン（現名誉会長）がパテック フィリップ社長に就任しようとしていた時、世界に名だたるスイス時計産業は苦難に喘いでいた。スターン家が創業家族からパテック フィリップの経営権を譲り受けたのは、大恐慌の最中の 1932 年のことである。フィリップ・スターンと父親のアンリ・スターン社長（当時）は今、第二の未曾有の危機を乗り越える大任を自覚していた。一部の時計メーカーはクォーツ時計への事業転換を開始し、工作機械の一部を処分し始めていた。しかしスターン家は違った。1960 年代の末、パテック フィリップは伝説的なクォーツ・ムーブメント《ベータ 21》の開発に参加しており、既にクォーツ技術を自家薬籠中のものとしていたのだが、スターン家にとって機械式時計は、何ものにも代え難い価値を持っていたのである。

将来を保証するエレガントな戦略

こうして 1976 年、パテック フィリップ社長アンリ・スターンとその後継者フィリップ・スターンは、クォーツ・ムーブメントを凌駕するきわめてエレガントな自動巻ムーブメントを開発するという、大胆きわまる戦略を打ち建てたのである。計時精度や低価格で競争するのではなく、美しさ、信頼性、耐久性、および内在的価値という、議論の余地のない土俵で勝負するのである。二人にとって、創業者アントワヌ・ノルベール・ド・パテックと共同経営者ジャン・アドリアン・フィリップが遺した価値は不朽であり、世代の交代や技術の進歩を超越したものだだったのである。しかし時計危機の最中であっては、新しい機械式自動巻ムーブメントの開発に投資するには、経営者として大きな勇気が必要であったことはいうまでもない。薄くエレガントな時計を創作するため、ムーブメントは超薄型でなければならなかった。そのためには中央ローターを搭載するわけにはいかない。だが驚くべきことに、早くも 6 か月後に、フィリップ・スターンの執務机の上には試作品が置かれていたのである。その最大の特徴は、小さな偏心マイクロローターが完全にムーブメント内に組み込まれていたことであつた。この構造により、厚さは薄型の手巻ムーブメントに匹敵するものとなった。

もちろん、偏心マイクロローターは、重量のある中央ローターほどの巻き上げ力を持たない。しかし技術部長ジェラルド・ベレの下に結集した技術陣は解決法を見出した。22 金を素材とすることで質量を増し、単方向巻き上げ式とすることで切替車による摩擦を排除し、歯型曲線が最適化され、歯が研磨された新しい輪列により、巻き上げ機構からガン



《報道資料》 ページ 2

ギ車に至るまでのエネルギー伝達効率をさらに向上させることができた。またテンプレ振動数を3 Hz (21,600 片道振動/時) に設定したことにより、4 Hzのムーブメントよりエネルギー消費を20%減少させることができた。この選択が正しいものであったことは未来が立証することになる。なぜなら、振動数3 Hzのキャリバー240の計時精度は、クロノメーターとしてのすべての規準をクリアするものだったからである。

広範なファミリーを形成するキャリバー240

キャリバー240は1977年、時、分表示を備えた超薄型タイムピース、ゴールデン・エリプス3738モデルに搭載されてデビューした。同一のタイプは2001年以来《クルー・ド・パリ》ベゼルを備えたクラシックなカラトラバ5120モデル、および2014年以来オフィサータイプの婦人用カラトラバ7200モデルに搭載されている。この40年間を通じ、キャリバー240は多数の追加機能を搭載するのに理想的な《エンジン》としての役割を果たしてきた。

1985年、キャリバー240 Q (Qは永久カレンダーの略称) の名の下に伝説的な超薄型永久カレンダー3940モデル (厚さわずか3.75 mm) に搭載され、以後数多くのエレガントな後継モデルを生み出した。1991年には、異例な4～5時位置にスモールセコンドを配したキャリバー240 PSが登場し、5000モデルに搭載された。1994年に発表された5015モデルは、スモールセコンドに加えムーンフェイズ、パワーリザーブ表示を備えた最初の「有用な」コンプリケーション・モデルである。1997年から2004年にかけて、このキャリバー240 PS IRM C LUは、幅の広いフラットベゼルで名高い5055モデルに搭載された。

2000年に発表されたワールドタイム5110モデル (キャリバー240 HU)、2002年のセレスティアル5102モデル (キャリバー240 LU CL)、2005年発表の初のノーチラス・コンプリケーション3712モデル (キャリバー240 PS IRM C LU)、そして2012年のレディス・ファースト・パーペチュアル・カレンダー7140モデルなど、これらの広範なファミリーは、いずれも最高の評価を与えられ、キャリバー240の多様性と信頼性の証ともなっている。

2008年以後、スケルトン仕上げのカラトラバ5180/1モデルは、手仕上げで透かし細工と彫金装飾を施したキャリバー240 SQUにより、希少なハンドクラフトにおけるパテック フィリップの卓越した技術を見せている。

技術革新の原動力、キャリバー240

過去40年間を通じ、キャリバー240には数多くの細部にわたる改良が加えられてきたが、その基本的仕様は誕生以来、忠実に守られている。例えば、テンプレは今も21,600 片道振動/時のままである。しかし髭ぜんまいは、パテック フィリップ特許取得のSilinvar[®]を素材とするSpiromax[®]に置き換えられ、計時精度がさらに向上している。輪列の歯車曲線も最適化され、磨耗の低減、エネルギー効率の上昇、パワーリザーブの増加、長期的な信頼性の向上が実現されている。2011年、キャリバー240 Q Siを搭載した《パテック フィリップ・アドバンストリサーチ》永久カレンダー5550モデルは、さらに決定的な技術革新をもたらした。Silinvar[®]製のSpiromax[®]髭ぜんまいとPulsomax[®]脱進機 (アンクルとガンギ車)、およびSilinvar[®]フレームとソリッドゴールド・インサートを備えたGyromaxSi[®]テンプレ (これら3つをOscillomax[®]と総称) を統合したキャリバー240 Q Siは、計時精度とパワーリザーブにおいて未曾有のレベルを達成したのである。パワーリザーブは、ベーシックなキャリバー240の48時間から70時間に増加している。

1977年のバーゼルワールドでキャリバー240がデビューしてから40年の歳月が流れた。これをテンプレの振動数に換



《報道資料》 ページ 3

算すれば、76億振動（片道）以上となる。キャリバー240の誕生40周年を記念し、パテック フィリップは、手仕上げで透かし細工と彫金装飾を施したスケルトン仕上げのローズゴールド仕様カラトラバ5180/1Rモデル、グラフィカルでエレガントなスタイルのカラトラバ6006Gモデル、ピュア・トップウェッセルトン・ダイヤモンドとピンクサファイヤがデリケートにセッティングされた婦人用カラトラバ・ハイジュエリー4899/900モデルをはじめとする洗練されたタイムピースを創作し、このムーブメントの多様性を改めて明らかにしている。それはまた、マニファクチュール パテック フィリップの多様性の証であることはいうまでもない。

《本資料に関するお問い合わせ先》

PP Japan 株式会社

パテック フィリップ ジャパン

A D & P R ディレクター

大塚和泉

電 話：03-5209-8018（直通）

F A X：03-3256-7558

izumi@ppjapan.com

《ご掲載いただく場合の読者お問い合わせ先》

パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター

電 話：03-3255-8109

《パテック フィリップ ホームページ》

<http://www.patek.com>（英語）

